

令和4年11月19日

創立50周年記念式典

「50周年記念式典ありがとうございました。」

11月19日、藤代高等学校創立50周年式典を挙行させていただきました。

当日は素晴らしい晴天の中での式典となりました。コロナ禍の中のため、出席者を制限しての開催となりましたが、取手市長の藤井信吾様をはじめ、来賓の方々を迎え厳粛な雰囲気の中で記念式典を行うことができました。

また、記念事業として藤朋会館（合宿所）の改修工事を計画していただきました。老朽化が目立つ建物のため、リニューアルが楽しみです。エアコンも完備され、快適な合宿はもちろん、放課後に活動している文化部も快適な活動ができそうです。

さらにスライドで見る「10年間の歩み」では懐かしい写真とともにコロナで制限を受けながらもたくましく活動する近年の藤代高の様子が見られました。最後に本校野球部OBでもある千葉ロッテの

美馬学選手からのビデオメッセージに生徒たちは背中を押されていました。

式典後に行われた記念講演は「50年の軌跡」と題した財津和夫さんのトークと歌でした。トークでは事前に生徒から集めた質問に財津さんが答える形で進められました。知恵を絞った質問も財津さんに見透かされたり、質問した生徒が指されたり、笑顔があふれた、コンサート会場のようなようでした。

高校時代の話などでは、財津さんの一番を目指さない生き方や適度な努力をしてきたこと、自分が作り上げた曲のボーカルを他の人に取り入れどん底を味わった過去、今も親交を深める良きライバルは小田和正氏であるなど、ユーモアを交えた財津さんのトークに次に出る言葉を真剣に待つ生徒の姿も見られました。

歌では電子ピアノを颯爽と演奏しながらの「サボテンの花」。そして「心の旅」。ややハスキーな伸びる高音には特に実行委員や教職員席が酔いしれました。

謝辞に代えて吹奏楽部による「TULIP」メドレーを財津さんに向けて演奏しました。財津さんにとってはサプライズのため驚きとうれしさが入り混じっていたとことです。

この式典で改めてこれまで関係者の方々が築き上げた 50 年の重みを感じると共に新たな一歩に向け教職員一同、本校の更なる発展のために努力を重ねる覚悟ですので、保護者の皆様方にも今後とも変わらぬ御理解と御協力を賜りますよう申し上げます。

藤代高で創立50周年式典
 さらなる飛躍願う
 創立50周年記念式典が19
 日、同校で開かれ、生徒や
 教職員、同窓生らが節目を

秋山克巳校長「取手
 毛町の県立藤代高校
 創立50周年記念式典で式辞を
 述べた秋山克巳校長」

祝うとともに、さらなる飛
 躍を願った。

式典で秋山克巳校長は
 「PTA、同窓会、後援会、
 地域の方々のサポートによ

り、これまでの歴史がつく
 られてきた。新たな一歩を
 踏み出すためにも、人間力
 あふれる人材を育成できる
 よう尽力していこうと式辞
 を述べた。生徒を代表し、
 生徒会長の松岡琴音さん
 (2年)は「50年の間に積み
 み上げてきた伝統は大変重
 みのあるもの。だがこの変
 化の大きな時代、今に合っ
 た取り組みは重要。だから
 この変化を恐れずに進んで
 いきたい」と決意を語った。
 その後、シカール・ソン
 グライターの財津和夫さん
 が「50年の軌跡」と題し
 て記念講演し、歌声も披露

茨城空港発着便予約状況(19日)

570242

茨城新聞 11月20日